

# 令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立日本橋小学校

## 学校の教育目標

<p>児童一人一人が個性や能力を発揮し、学校や地域社会の一員として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく考える子 創意工夫をこらし、主体的に学び続ける子供</li> <li>・礼儀正しい子 きまりを守り、礼儀正しく思いやりのある子供</li> <li>・やりぬく子 勤労と責任を重んじ、何事にもねばり強く努力する子供</li> <li>・健康な子 明るく、心身ともに健康な子供</li> </ul> <p>の育成に向けた教育を推進する。</p>
---

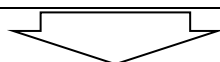
教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

<p>◎社会的事象を切実感をもって捉え、創意工夫をこらし主体的に学び続ける力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得</li> <li>・物事に対する興味・関心の向上と「学びに向かう力、人間性」の確実な育成</li> </ul> <p>◎主体的に「問い」をもち、社会に見られる諸課題を解決しようとする資質や能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問い」を追究し解決するための「思考力、判断力、表現力」の確実な育成</li> </ul>
--

令和3年度「学習力サポートテスト」や令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文の要旨、物語文の人物の心情を読み取る力に課題があり、学習力サポートテスト(R4 4月実施)では、4・5年の正答率が、区の平均を2ポイント下回った。</li> <li>・情報の扱い方に関する事項に課題があり、学習力サポートテスト(R4 4月実施)では、全学年の正答率が、区の平均を3～4ポイント下回った。</li> <li>・漢字の習得率の個人差が大きい。</li> <li>・支援を要する児童に対しての指導の工夫に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述を基に、登場人物の気持ちや場面の様子、段落や文章の内容を捉える力が不足している。</li> <li>・情報と情報との関係について理解し、要旨を捉えたり、要約したりする力が不足している。</li> <li>・漢字を練習し、活用する力の積み重ねが不十分である。</li> <li>・必要感をもって文章を書く経験が少ない。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の意図を読み取り、数学的に考える力に課題がある。</li> <li>・支援を要する児童に対しての指導の工夫に課題がある。</li> <li>・活用する力に課題があり、学習力サポートテスト(R4 4月実施)では、4・5年の正答率が、区の平均1ポイント程度下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を論理的に考え、その考えを説明する力が十分に育っていない。</li> <li>・個に応じた指導に課題がある。</li> <li>・知識を使って問題を解いたり理由を説明したりする力が不足している。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習力サポートテスト(R4 4月実施)では、5年生の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が、区の平均を2～5ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の学習内容が十分に定着していない。</li> <li>・実体験と結び付けて考える経験が少ない。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習力サポートテスト(R4 4月実施)では、4・5年生の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が、区の平均を2～5ポイント下回った。</li> <li>・4年「電気の通り道」5年「電気のはたらき」に関する知識・技能に課題がある。</li> <li>・実験・観察結果から、筋道を立てて論理的に考える力がまだ育っていない。</li> <li>・自然事象への関心が全体的に低いことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の学習内容が十分に定着していない。</li> <li>・経験や既習事項から予想を立てたり、結果を論理的に考えたりする機会が少ない。</li> <li>・学校の授業以外で、実験や観察をする場がほとんどない。</li> <li>・自然の事象に触れる機会が少なく、関心が低い。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を書く力に個人差がある。(高学年)</li> <li>・英語で表現する力に個人差がある。(高学年)</li> <li>・学習に対する興味・関心の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本となるローマ字の定着に差があり、書くことに抵抗感が見られる。</li> <li>・表現することへの抵抗感が見られる。</li> <li>・日常生活で英語にふれる機会が少ない。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査(R4 6月実施)では、「ソフトボール投げ」「握力」「上体起こし」「長座体前屈」で、都の平均を下回る傾向にある。</li> <li>・運動技能に個人差が大きく、疲れやすい児童や体の使い方がぎこちない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外で体を動かして遊ぶ経験と時間が少ない。</li> <li>・日常的にボールを投げる経験が少ない。</li> <li>・休み時間、人数制限して活動しているため、一人一人が体を動かす時間が減った。</li> <li>・塾や習いごとがあるなど、日常的に体を動かす時間が不足している。</li> </ul>

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習力サポートテスト(R5 4月実施)では、全実施学年で領域「読むこと」が、区の平均を上回るようにする。</li> <li>・学習力サポートテスト(R5 4月実施)では、全実施学年で「情報の扱い方に関する事項」が、区の平均を上回るようにする。</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習力サポートテスト(R4 4月実施)では、全実施学年で「活用する力」が、区の平均を上回るようにする。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習力サポートテスト(R5 4月実施)では、全実施学年で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が底上げできるようにする。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習力サポートテスト(R5 4月実施)では、5・6年生の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が、区の平均を上回るようにする。</li> <li>・学習力サポートテスト(R5 4月実施)では、4年「電気の通り道」5・6年「電気のはたらき」に関する知識・技能が区の平均を上回るようにする。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習力サポートテスト(R4 4月実施)では、6年の「知識・技能」が、正答率がさらに向上するようにする。</li> </ul>
	体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査(R5 6月実施)では、「ソフトボール投げ」、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」が、都の平均に並ぶようにする。</li> </ul>
②授業改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日のタブレット端末、電子黒板等のICT機器活用率を100%にする。</li> <li>・学校評価（児童アンケートと保護者アンケート）の関連する質問項目で、80%以上の肯定的な評価を得られるようにする。</li> </ul>
③家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価（保護者アンケート）の関連する質問項目で80%以上の肯定的な評価を得られるようにする。</li> </ul>
④体力向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査(R5 6月実施)では、「ソフトボール投げ」、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」が、都の平均に並ぶようにする。</li> </ul>



## 【目標達成のための具体的な取組内容】

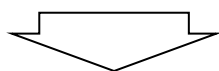
①各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間をとおして、文を書く機会を設け、書く力の育成に努める。</li> <li>・学級文庫や学校図書館、日本橋図書館、電子書籍を活用した読書活動を促進して、登場人物の気持ちや場面の様子、段落や文章の内容を捉える力が高まるようにする。</li> <li>・国語の学習以外でも文章で表現する機会を増やし、児童が自ら意欲的に文章を書くための資質を高める。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット、電子黒板等のICT機器を有効に活用し、児童の学習意欲を引き出し思考力・判断力・表現力を高める工夫をする。</li> <li>・家庭学習においても活用を促し、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・支援を要する児童に対して指導が充実するよう、少人数指導を工夫する。</li> <li>・自分で課題をもち、その課題達成に向けて主体的に取り組めるよう少人数指導を充実する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象についての理解度があがるように授業を工夫する。</li> <li>・児童が課題（「問い」）をもち、その課題の解決に向けて主体的に取り組めるよう、授業の導入を中心に工夫する。</li> <li>・単元の導入場面で、地域人材・資源との出会いを演出し社会的事象を自分事として捉えられるようにする。</li> <li>・課題解決の場面では、地域資源を観察・調査したりする活動を意図的に取り入れることで、主体的・対話的で深い学びが実現するように工夫する。</li> </ul>

理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想を立てる場面、結論を考える場面で、話し合いの充実を図る。</li> <li>・校外学習などで、自然の事象を観察する機会を意図的に取り入れる。</li> <li>・エネルギーを柱とした内容（電気に関する内容）の学習指導を工夫する。</li> <li>・自然事象への関心を高める導入、実験器具の扱い方、筋道を立てて論理的に考える力の育成に重点を置いた授業を工夫する。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味をもって話を聞けるよう、掲示物を生かしたり、ALTを活用したりする。</li> <li>・ミニプリント等を用いて、復習時間（書く時間）を設ける。</li> <li>・少人数で段階的に発表するなど実施方法を工夫して、表現活動をしやすくする。</li> <li>・オンライン英会話を実施するなど、習得した英語を活用する機会を作る。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動技能の個人差、体の使い方のぎこちなさがなくなるように授業を工夫する。</li> <li>・外遊びや放課後遊びなどの実施回数を増やすなど、体を動かす機会を確保する。</li> <li>・ボール運動の単元で「投力」を意識した学習活動を多く取り入れる。</li> <li>・体づくり運動の単元で、コオディネーショントレーニングを多く取り入れる。</li> </ul>
<b>②授業改善</b>	
取組Ⅰ	教材との出会いを工夫し、主体的に「問い」を追求する児童の育成を目指して、地域教材の開発とともに、社会科・生活科を中心に教材との出会いを工夫した授業づくりに取り組む。
取組Ⅱ	タブレット端末、電子黒板等のICT機器を有効に活用し、児童の学習意欲を引き出し思考力・判断力・表現力を高められるよう、教員相互で授業を見合い、指導法を工夫する。

<b>③家庭との連携</b>	
取組Ⅰ	児童の主体的な学びを促進するために、家庭での学びを支援する「My Study」を新たに実施する。
取組Ⅱ	「通知表プラス」を新たに実施することで、学校での学習状況や学校生活の様子について個人面談を通して、きめ細かく保護者へ伝える。

<b>④体力向上</b>	
取組Ⅰ	児童の運動機会の確保に向け、「放課後遊び」の回数を増やすとともに、生活時程の見直しを図り、休み時間の時間を延長する。
取組Ⅱ	学習の中で、「投げる力を高める動き」「握力を高める動き」「柔軟性を高める動き」「体幹の筋力を高める動き」を積極的に取り入れる。

## 【取組結果の検証】



学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の振り返り作文など、年間をとおして文を書く機会を設けることで、児童が自ら意欲的に文章を書くための資質を高めることができ、書く力の育成に効果があった。</li> <li>・学習力サポートテストの国語「書くこと」の数値が、目標値を10ポイント程度上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の気持ちや場面の様子、段落や文章の内容を捉える力を十分に高めることができなかつたため、学級文庫や学校図書館、日本橋図書館、電子書籍を活用した読書活動を継続して促進していく。</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット、電子黒板等のICT機器を有効に活用し、児童の学習意欲を引き出し思考力・判断力・表現力を高めた。</li> <li>・家庭学習においても活用を促し、基礎学力の定着を図ることができた。</li> <li>・学習力サポートテストの算数「思考力・判断力・表現力」の数値が、目標値を10ポイント程度上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加配教員と(区)算数講師が中心となり、算数少人数指導を工夫するによって、児童が自分で課題をもち、その課題達成に向けて主体的に取り組めるよう指導の充実を図る。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入を工夫したことで、児童が課題(「問い」)をもち、その課題の解決に向けて主体的に取り組めるようになった。</li> <li>・単元の導入場面で、地域人材・資源との出会いを演出したことで、児童が社会的事象を自分事として捉えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象についての理解度があがるように、継続して授業改善に取り組む。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びが充実するよう、課題解決の場面では、地域資源を観察・調査したりする活動を意図的に取り入れる。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想を立てる場面、結論を考える場面で、話し合いの充実を図ることができた。</li> <li>・校外学習などで、自然の事象を観察する機会を意図的に取り入れることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「物質・エネルギー」「生命・地球」の学習指導を工夫する。</li> <li>・自然事象への関心を高める導入、実験器具の扱い方、筋道を立てて論理的に考える力の育成に重点を置いた授業改善を図る。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニプリント等を用いて、復習時間(書く時間)を設けたことで、学習力サポートテストの英語「書くこと」の数値が、目標値を6ポイント程度上回った。</li> <li>・オンライン英会話を実施したことで、習得した英語を活用する機会ができ、学習意欲の向上につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抵抗感なく表現活動がしやすくなるように、少人数で段階的に発表するなど、実施方法の工夫を図る。</li> <li>・ALTを活用することで、興味をもって話が聞けるように、指導方法を工夫する。</li> </ul>
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習過程の中で、基本的な体の動きを高める運動を取り入れたことで、基本的な体の動きが高まった。</li> <li>・チームや学習グループの組み合わせを工夫することで、運動技能の個人差を解消できるようにした。</li> <li>・外遊びや放課後遊びなどの実施回数を増やすなど、体を動かす機会を確保することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる体力向上をめざして、ボール運動の単元で「投力」を意識した学習活動を多く取り入れる。</li> <li>・引き続き、体づくり運動の単元で、コーディネーショントレーニングを多く取り入れ、基本的な体の動きの向上を図る。</li> </ul>
②授業改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材との出会いを工夫し、地域教材の開発とともに、社会科・生活科を中心に教材との出会いを工夫した授業づくりに取り組んだことで、児童が主体的に「問い」を追求するようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学習意欲を引き出し、思考力・判断力・表現力が高められるように、教員相互で授業を見合ったり、指導方法を紹介し合ったりするなど、タブレット端末、電子黒板等のICT機器の活用を推進する。</li> </ul>

<p>③家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月末に個人面談（通知表プラス）において、四教科テストの観点別得点やノートや作品などを使って学校での学習状況や学校生活の様子について、きめ細かく保護者へ伝えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「My Study」の取り組み方、様々な取組事例を紹介するなど、さらに児童の主体的な学びが促進できるように、家庭との連携を図りながら、指導を継続していく。</li> </ul>
<p>④体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「放課後遊び」の回数を増やしたこと、生活時程の見直し休み時間を長くしたことで、児童の運動機会をたくさん確保することができた。</li> <li>・学習の中で、「投力・握力・柔軟性を高める動き」や「体幹の筋力を高める動き」を積極的に取り入れ、体力向上に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の体力状況を踏まえ、基礎体力向上に留意した体力向上プランを作成する。</li> <li>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、都のTスコアと比べ平均を下回っている「投力」「握力」「柔軟性」「体幹を支える力」が向上するよう、単元に応じて、授業の中で意図的に動きを取り入れる。</li> </ul>